

魔法にかけられて

2008(平成20)年1月22日鑑賞(試写会・TOHO シネマズなんば)

★★★



監督＝ケヴィン・リマ／出演＝エイミー・アダムス／パトリック・デンブシー／ジェームズ・マースデン／スーザン・サランドン／イディナ・メンゼル／レイチェル・コヴィー／ティモシー・スポール (ウォルト ディズニー スタジオ モーション ピクチャーズ ジャパン 配給／2007年アメリカ映画／108分)

……おとぎの国と現実の国の融合は、対立するキリスト教国とイスラム教国の融和以上に難しいもの……？ それをアニメと実写の融合と共に合わせてやってのけたディズニーは偉い！ もちろん、物語はありえない話とバカバカしい話の連続。しかし、この映画はそれを楽しまなくっちゃ……。少年の心をもった自分が今なおいるかどうか、それを自問自答してみることが大切だが……？

おとぎの国 vs. 現実の国

2001年の9・11同時多発テロ以降、キリスト教社会とイスラム教社会の対立が顕著になっているが、その根本原因はお互いを理解しあえないところにある。しかし、この映画における夢と魔法の王国アンダレーシアと現代のニューヨークは、それ以上に互いに理解できないはず。なぜなら、アンダレーシアはお姫サマのジゼル（エイミー・アダムス）や王子サマのエドワード（ジェームズ・マースデン）が真実の愛のキスを交わすことを夢みながら、動物たちと共に仲良く暮らす夢の国。それに対し、バツイチで弁護士のロバート（パトリック・デンブシー）が一人娘モーガン（レイチェル・コヴィー）と共に生活しているマンハッタンのタイムズ・スクエアは超現実的世界で、5年越しの恋人ナンシー（イディナ・メンゼル）との愛すらスナリ信じる事ができない世界なのだから。

大統領選挙の予備選が始まったアメリカでは、今年2月5日のスーパー・チューズデーに向けた民主党のヒラリーとオバマの勝負が見どころだが、そんなアメリカだけ

からこそ、おとぎの国と現実の国の融合という大きな理想がディズニーから提案されたのかもしれない。したがって、この映画を鑑賞するについてはあまり難しいことを考えず、子どもの心でスクリーン上で展開される物語の中にスナリ入っていかねばならないのだが……。

アニメと実写の融合

この映画のもう1つの理想へのチャレンジは、アニメと実写の融合。冒頭の約10分間、おとぎの国アンダレーシアにおけるディズニー映画の特徴がアニメで描かれるが、その後スクリーン上は一気に現実のニューヨークへと転換する。それは、ジゼルが義理の息子であるエドワード王子と結婚することによって自分の王座が奪われることを恐れたナリッサ（スーザン・サランドン）が、『『永遠の幸せ』などカケラもない所へ行くがよい！』と言い放ちながら、井戸の底へジゼルを突き落としたため。

ジゼルはマンホールのふたを開けることによって現実の国ニューヨークへデビューしたが、現代のマンハッタンがヒラヒラドレスに身を包んだお姫サマが1人で生活できるような場所でないのは当然。そんなマンハッタンのまちを1人さまよっているジゼルをたまたま発見したのが、娘のモーガンと一緒にタクシーに乗っていたロバート。建物から落ちてきたジゼルを受けとめたロバートは、トンチンカンな会話を交わしながら仕方なくジゼルを自宅アパートへ案内することに。

さあ、ここからアニメではない実写版のジゼルがマンハッタンにデビューし、王子サマのお迎えを待つことになるのだが、その前途は多難そう……。

おとぎの国から現実の国へ次々と……

ジゼルの次におとぎの国から現実の国マンハッタンへやってきたのは、当然エドワード王子。ジゼルのお姫サマ姿も現代のマンハッタンでは異様に目立つが、エドワードの王子サマ姿は多分それ以上。また、ジゼルのドレスはその後少しずつ現実に対応して変わっていくが、エドワードのスタイルは変化がないうえ、自信満々の彼はドン・キホーテよろしくバスを相手に闘いを挑むなど、現代のマンハッタンで堂々とそのキャラを發揮していかなければならないから大変。

そんなエドワードに続いておとぎの国から現実の国へ移住してくるのは、アンダレーシアの森に住むジゼルの親友のシマリスのピップ。そして、エドワードの従者だが

心はナリッサ女王の虜となっているため、女王の命令によってジゼルを毒リングで殺そうと企むナサニエル（ティモシー・スポール）。そしてついには、ナサニエルのチョンボ続きに業を煮やしたナリッサ女王自身も現実の国へやってくることに。

こんな風に、次々とあのマンホールを通しておとぎの国からの移住者が相次いだから、現実の国マンハッタンとロバートが大変な騒動に巻き込まれることになったのは当然……。

「デート」の意味は……？ 2人の仲は……？

ジゼルとロバートの価値観が当初全然かみ合わなかったのは当然。したがって、実写版に転換した当初のシーンはそのかみ合わない面白さがポイント……？ ジゼルのおかげで5年越しの恋人ナンシーから誤解されたり、職場の仕事で大変な影響を受けたり、と散々な目に遭ったロバートが、ジゼルをつき放してしまったのはある意味当然。しかし、ロバートから受けとったお金をすぐに見ず知らずの老婆に渡しているジゼルの姿をみると、やはりジゼルを放っておけなかったよう……。

その結果、永遠の愛を無条件に信じているジゼルと今やっとナンシーとの結婚を得意できたロバートは、恋愛論について熱い議論を。そしてここでロバートがジゼルに教えたのが「デート」、つまり知り合ったばかりの男女が2人で会い、食事をし、好きなことや嫌いなことを語り合う中でお互いを理解していくことの大切さだ。しかしよく考えてみると、ロバートとジゼルが今やっているのは、そのデートでは……？

すると、そのデートが重ねられていくと2人の仲は……？

クライマックスの舞踏会では一体ナニが……？

この映画については細かいストーリー紹介は全く意味がないので、それには触れないが、映画のクライマックスはラスト5分間の舞踏会のシーン。このシーンはアニメより実写の方が圧倒的に迫力があり、かつ魅惑的。ちなみにプレスシートによれば、この舞踏会の撮影のために「100人のダンサーと150人のエキストラが集められ、彼らと主演者達に、2週間ものダンスのリハーサルがなされた」とのことだから、その美しさをじっくりと味わってもらいたいもの。

このシーンの第1のポイントは、それまではジゼルとエドワード王子が結婚し、ロバートとナンシーが結婚するのが当然と考えられていたが、どうもそれが微妙な雰囲気

気になってきたこと。さて、その意外な展開は……？

第2のポイントは、ここでやっとナリッサ女王によるリング毒殺が成功し、ジゼルが眠ってしまったこと。そこで、魔法の力よりも強い愛のキスがあるかどうか最大の焦点となるのだが、さて、その成り行きは……？

あなたは子供、それとも大人……？

こんな美しい舞踏会のシーンを楽しみながら、夢のような物語の展開にうっとりできれば、あなたの心はまだ子供の美しさをもったまま。しかし、途中で物語の展開に飽きてきたり、「こんなバカバカしいストーリーは……」なんて思うとすれば、もはやあなたは子供の心を失った、つまらない大人になってしまったということ……？
さて、あなたはどちら……？

2008(平成20)年1月23日記